

佐久地域の高等学校の将来像を考える地域の協議会  
第3回会議の主な意見

- (相馬委員) ⇒ 修正反映先 6ページ 9～11行目、22～24行目
- ・地方圏ほど、より高度で広範な学習に触れる機会が少ない現実がある。地方に住んでいることで機会を逃したり、才能を伸ばせなかったりすることや、そういった教育を求めて都市圏に転出していくことがあると、地域の将来にとって大きな損失となる。地域において知的好奇心を満たす教育に触れ、能力のある学生をより育てる、トップクラスの進学を果たせる環境を整えることが必要である。
- (掛川委員) ⇒ 修正反映先 4ページ 22～23行目
- ・これから国内社会では人口減少や少子高齢化など、世界では人口爆発による食糧ひっ迫などの様々な課題が起こっていく。これらの課題の中には、AIやITではなく人間でないと解決できない性質のものも含まれる。人間が行う仕事というものがどこに向かうのか、その将来を見据え、その「とっかかり」となるような、目的意識の醸成に繋がる教育が望まれる。
- (両角委員、西部委員) ⇒ 修正反映先 10ページ 6～12行目
- ・高校のあり方において、地域の支援は必要不可欠である。しかし、学校の現場や地域の実情では、高校と地域の相互間連携に向けて自発的に体制を構築するだけの仕組みや体力が備わっていない。地域の支援と高校との連携が必要だということは誰もが分かっている。それを具体化していくために後押しする仕組みを県教委自ら作る必要がある。
- (藤巻委員) ⇒ 修正反映先 4ページ 24行目
- ・地域の学力を上げることが重要。「いい大学に行く」ということだけでなく、どんな職業に就くにしても、ある程度学んでいないと、将来を選択する発想には至らないのではないか。
- (藤巻委員、掛川委員、藤原委員、堀内委員) ⇒ 修正反映先 9ページ 26～31行目
- ・地域と高校との連携は、地域の自治組織はもとより、地元市町村、地元企業、大学や私学の小・中・高等学校、試験場などの研究機関、NPOなどの地域活動を推進する組織など様々な形態や連携先があり得る。これらを地域にある

資源、地域らしさの発信源と捉え、多様な連携を図ることが必要である。

(吉沢委員) ⇒ 修正反映先 7ページ 26行目

- ・「地域の望む声に耳を傾ける」ことが、学びの場の提供に向けて大切。「おわりに」にその旨の記載があるが、「多様な学びの場」にも同趣旨を求めることが必要である。

(浅沼委員) ⇒ 修正反映先 6ページ 12～16行目

- ・地域高校の取組の中で、「うまいコメ作り」として全国1位に輝いたり、創作料理で日本代表となったりなど、地域資源を生かして人を誘引できる特徴が出てきている。他に比類しない突き抜けた魅力は、地域内外から多くの生徒を惹きつける材料となり、少子化の中においても地域高校が輝き続ける源となる。専門性を高めるために6年制の一貫校を設けるなど、制度にこだわらない、特徴を明確にしていく方向性が必要である。

(由井委員) ⇒ 修正反映先 11ページ 8～11行目

- ・社会の変化の中で、高校も変化していかなければならない。世の中に取り残されているものに対して、これからの未来を背負う子どもたちが集まるわけがない。高校でも変革を起こし、世の中の受け皿になっていくことが必要である。

(伊澤委員) ⇒ 修正反映先 5ページ 8～9行目

- ・学びを深めるためには、生徒が面白がることが重要。学ぶことの面白さを自ら気付けるよう、高校がその伝える場であることが必要である。

(その他) ⇒ 修正反映先 12ページ 5～8行目

出された意見等の詳細について、協議会の資料や議事録に幅広く記載されているので、これらも参照するよう県教委に要望

#### 意見提案(案)の事前確認に際し追加で寄せられた意見

(由井委員) ⇒ 修正反映先 11ページ 10～11行目、12ページ 4行目

- ・佐久地域の学びの将来のためには、高校再編は必須である。この点について、協議会で共有はしているが、明確な文言としても盛り込むべき。また、その再編もスピード感が必要である。